

血清中のHLA-G 抗原スクリーニング

基礎

王寺 典子 Noriko Ouji

免疫学／助教

■キーワード HLA-G、血清、血漿、ELISA

シーズ概要

HLA-G は、非古典的 HLA クラス I 遺伝子に分類される HLA 遺伝子の一つで、通常の HLA 遺伝子と異なり多型性に乏しい。また多くのアイソフォームが存在し、4 種の膜結合型 HLA-G 抗原と 3 種の可溶性 HLA-G 抗原を産生する。これらの HLA-G 分子は免疫担当細胞上の抑制性レセプターに作用して、これら免疫担当細胞の活性を制御する分子としても期待されている。そのタンパクとしての発現部位は、正常組織において胎盤トロホプラストに強く、その他、活性化された免疫担当細胞、腫瘍、生着移植片（腎臓、肝臓、心臓）、脳、脾臓などに検出され、腫瘍細胞から分泌されるエキソソームのマーカーとしても使用されている。以上のことから、HLA-G はあらゆる組織において産生され、生体内の免疫制御状態を反映している可能性がある（論文 1）。

我々は従来法よりも、より正確に血漿・血清中 HLA-G 抗原測定系を確立している（論文 2）。

研究成果の応用可能性

生体の免疫応答を調節するような医薬品・サプリメントなどにより、HLA-G 抗原が増強される場合、血漿中の HLA-G 抗原を測定することで、そのサプリメントによる免疫制御効果を確認することが可能となる。

Appeal Point

アピールポイント

我々の手法を使用することで、より正確な体液中の HLA-G 抗原濃度を測定することが可能になります。

測定されたいサンプルがあれば、是非、お声掛け下さい。

関連文献／特許

1. Revmann V et al., Front Immunol, 7;173,2016
2. Ouji-Sageshima N et al., HLA,88;293, 2016